

短報一 2

冬期北浦を中心に混獲されたアユ仔稚魚について

根本 隆 夫

1. はじめに

1992年春～秋期に霞ヶ浦・北浦でアユ仔稚魚が多獲され話題になったことは記憶に新しいことである。しかも、その直後の1992年12月からトロール・張網等でアユ仔稚魚が混獲された。その数は極僅かであったが、霞ヶ浦・北浦水系で冬期にアユ仔稚魚が採集されたことは初めての例と思われ¹⁾、非常に興味深いことであった。

その後の1993年の春～秋期は同様に張網等でアユが漁獲されたものの、前年ほど多くはなかった(漁業者複数談)ため、大きな話題にはならなかった。ところが、12月から北浦の大洋村沖を中心とした水域でトロール・横曳網等でアユ仔稚魚がまとまって混獲されるようになった。また、その体長が、冬期にしては非常に大きいものが多かった。

ここでは、1993年12月から翌年2月の間に混獲されたアユ仔稚魚の混獲状況と魚体について記録しておくものである。

なお、標本を提供して頂いた大洋村漁業協同組合理事の田口三郎氏、古渡漁業協同組合理事の諸岡清志氏及び潮来町漁業協同組合の方々には深く感謝の意を表します。

2. 材料及び方法

- (1) 1993年12月から1994年2月にかけて北浦・霞ヶ浦水系で採集されたアユ仔稚魚について、生または凍結解凍後、体長(SL)及び体重(BW)を測定し、その組成を出した。標本はトロール、横曳網、張網及び投網で混獲されたものである。
- (2) 採集時に漁業者より漁獲場所、漁獲水深、混獲状況等について聞き取りを行った。

3. 結果及び考察

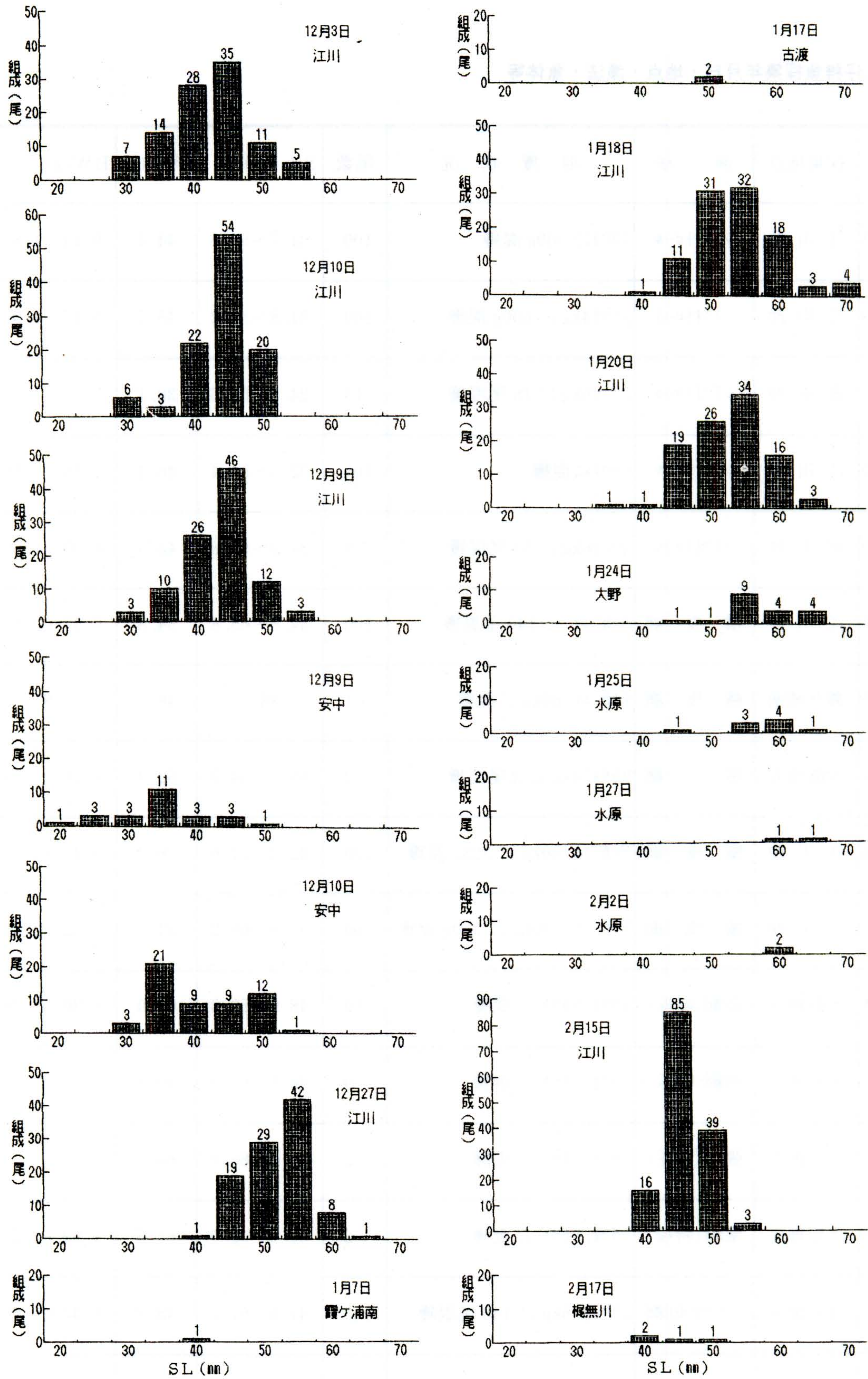
(1) アユ仔稚魚の漁獲場所、混獲状況等

- ア アユ仔稚魚の混獲は北浦及び霞ヶ浦水系で見られたが、特に北浦の大洋村江川沖で多かった。
- イ 漁業者の話では12月になって急にトロールに多く混獲されるようになったということである。トロールによる混獲数は前年同期では最高13尾¹⁾であったが、今回は表1に示したとおり最高600g(約800尾)とはるかに多かった。この時の混獲率は15%にも及んだ。
- ウ シラウオトロール(表層曳き)では多く混獲され標本も得られたが、ワカサギトロール(中層曳き)ではほとんど混獲されなかったため標本は得られなかった。また、12月11日以降はトロールの禁止期間のため、横曳網(底層曳き)の標本が中心となったが、トロールほど多く混獲されなかった(混獲率は1%程度)。
- エ 1月21日以降は横曳網も禁止期間となったが、張網やシラウオ刺網において混獲された。張網による混獲は僅かであったが、継続して入網していたようである。シラウオ刺網による混獲率は時と場所によって様々であったが、大洋村江川のコイの網いけす付近では多かった。
- オ 2月中旬には内水試近くの梶無川の投網でも漁獲された。この時の川の水温は9.3℃で霞ヶ浦湖岸の水温は7.5℃であり(いずれも表層)、川の方が高かった。1, 2月は霞ヶ浦の水温が5℃以下になることがあるため、アユ仔稚魚には厳しい環境である。この水温低下時に少しでも水温の高い流入河川等の水域に移動することは十分考えられる。

表1 アユ仔稚魚採集年月日・地点・漁法・魚体等

年月日	採集地点	漁法	混獲状況	尾数	S L (mm)		B W (g)	
						平均		平均
1993. 12. 3	江川沖	シラウトロー	シラウトに 500g 混獲	100	31.7~58.4	44.5	0.14~1.87	0.67
12. 9	江川沖	シラウトロー	シラウト4kg に 600g 混獲	100	31.8~59.2	45.7	0.17~1.85	0.75
12. 9	安中沖	シラウトロー	シラウト6kg に 15 尾混獲	15	24.8~52.6	38.1	-	-
12.10	江川沖	シラウトロー	シラウトに混獲	105	32.5~54.4	46.4	0.16~1.16	0.67
12.10	安中沖	シラウトロー	シラウト6kg に 55 尾混獲	55	31.3~56.8	43.5	0.09~1.60	0.56
12.27	江川沖	横曳網	テカビに 140 尾混獲	100	44.8~65.8	54.8	0.47~2.61	1.15
1994. 1. 7	霞ヶ浦南	横曳網	テカビ 60kg に混獲	1	48.3	48.3	0.87	0.87
1. 17	古渡地先	張網	ワサギ 4kg に 2 尾混獲	2	50.7~54.9	52.8	1.16~1.59	1.38
1. 18	江川沖	横曳網	テカビ 30kg に 323g 混獲	100	42.3~71.6	56.3	0.41~3.39	1.40
1. 20	江川沖	横曳網	テカビ 30kg に 370g 混獲	100	37.5~66.2	54.9	0.22~2.34	1.21
1. 24	大野地先	張網(特採)	シラウト, ワサギに混獲	19	48.9~69.0	60.0	0.80~2.80	1.88
1. 25	水原地先	張網(特採)	シラウト, ワサギに混獲	9	46.5~67.9	59.8	0.71~2.73	1.83
1. 27	水原地先	張網(特採)	シラウト, ワサギに混獲	2	60.0~68.0	64.0	-	-
2. 2	水原地先	張網(特採)	シラウト, ワサギに混獲	2	61.0~62.0	61.5	1.99~2.24	2.12
2. 15	江川地先	シラウト刺網	シラウト5.5kg に 143 尾混獲	143	41.6~57.7	48.7	0.47~1.60	0.95
2. 17	梶無川	投網	シラウト, アシロハセ等と混獲	4	42.3~50.2	46.0	0.45~0.93	0.64

注) 尾数は測定尾数



(2) アユ仔稚魚の魚体

ア 体長組成の推移を図1に示した。12月上中旬は体長35~50mmにモードがあった。これは沿岸域にこの時期に分布するアユ仔稚魚に関する知見²⁾と比較すると、大きい値であった。その後12月下旬以降になると50~60mmにモードが移った。しかし、2月下旬の江川の刺網では若干小さく45~50mmにモードが見られた。

イ 今回、1gを越える稚魚は、12月上旬から出現しており、石川(1993)¹⁾によると北浦で1gを越える稚魚が出現したのは1月下旬からであり、前年同期と比べて魚体が大きかった。

ウ 2月にシラウオ刺網に混獲されたものは、平均で1g以下と比較的小さかったが、これには網目(目合35節)による選択性の効果が考えられる。また、ワカサギトロールで漁獲されず、シラウオトロールで多く漁獲されたことは、曳く層の違いの

みならず、目合いの違いも原因として考えられる。

エ 12月上旬にはトロールに目かかりしていたものが多かったという(漁業者談)。トロールや横曳網の目合より魚体が細いものは網から抜けると考えると、12月になって急に混獲率が高くなったのは、12月になってトロールの漁獲サイズにまで成長したためだとも考えられる。しかし、それまでこの水域にいなかったものが12月に他の水域(海等)から移動してきた可能性もあり、今後の研究が待たれる。

4. 文 献

- 1) 石川弘毅(1993)：霞ヶ浦・北浦水系で採集されたアユについて，茨城内水試調査研報，29，36-45
- 2) 塚本勝巳・望月賢二・大竹二雄・山崎幸雄(1989)：河口水域におけるアユ仔稚魚の分布・回遊・成長，水産土木，25(2)，47-57

